

長崎市沖ノ島 松岩の中の穿孔貝

阪口和則 (大村市)

Martesia in the Okinosima Formation

Kazunori SAKAGUCHI

はじめに

伊王島の遠見岳南東の大中瀬戸灯台から畔までの海岸には多くの松岩(珪化木)が転がっており、その珪化木のほとんどは穿孔貝によって見事に穿孔されていた(写真5)。これは、長尾 巧(1926)の「沖ノ島層には多数の炭化した木片および*Terredo*によって穿孔された流木片があり、多くは角が取れて丸くなっている」に相当するものであろうと思われる。その年代は上部始新世に当たる。

ほとんどは砂管(サンドパイプ)として産出した。その中に数個だけ(写真1, 2)、印象の残る化石標本を探し当てることができたので紹介する。標本について長崎県地学会員であった生物に詳しい西海町立西小学校(当時)の松林金造先生、長崎北高等学校(当時)山本愛三先生にお尋ねした。特に山本愛三先生には現生標本(写真3, 4)を見せていただき、カモメ

ガイモドキの仲間であることを教えていただいた。珍しい化石なので報告する。

現生標本の記載(写真3, 4を参照)

Genus *Martesia* Blainvill 1825

カモメガイモドキ属 ニオガイ科

種類: *Martesia striata* (LINNE)

カモメガイモドキ(本州紀伊以南)

Syn. *Mesopholas intusgranosa* Iw. TAKI et Habe; *Pholas cupula* YOKOYAMA. 1924;

Mertesia striata tokyoensis YOKOYAMA 1927

記載:

1. 殻前方は被板で閉じられ、後方は細まり後端は開く、殻表は2区に区切られ、前区は鍔目状の彫刻があり、後区は成長脈のみで、殻頂部をおおう前板は亜方形でよく発達し、細長い後板と腹板がある。木材に穿孔する。体長約1 cm。



写真1 化石カモメガイモドキ 1

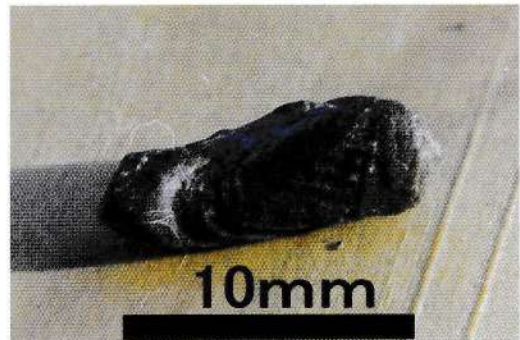


写真2 化石カモメガイモドキ 2



写真3 現生カモメガイモドキ 1

2. 鱗目状の部分は放射肋で区切られていない。
3. 海表面の流木などに穿孔する。

化石の観察

洪水などで流された流木に穿孔し、さらに流木とともに水底に没し泥や砂に覆われ、のちに珪化や炭化作用などの続成作用を受け、生体のほとんどは溶け去りわずかのものの印象が幸いにも残って貝殻の印象をとどめた。サンドパイプ状の標本の表面は石炭がびっしりと張り付いて、標本が小さいこともあって手作業では取り除くことが難しい(写真6)。

写真5の巣穴の断面を見るとほとんど交差することなく、密集して巣穴が穿たれていることに興味がわく、またそれぞれの巣穴の壁は補強のために薄い(0.4mm程度の)石灰質の沈着物でコーティングされている。

“*Martesia*” *pulchella* YOKOYAMA の原記載 (Katsura OYAMA, ほか (1960))

左殻長さ20mm、高さと幅は10mm。横長で、高くてもふくらんだ部分は丸くなった前方に近いところにある。そして後の丸まった終端に向



写真5 珪化木に穿たれた巣穴の断面



写真4 現生カモメガイモドキ 2

かって低く、すぼまっている。明瞭な縦の溝状の皺が殻頂から腹縁に向かって走っている(それはわずかに傾いており下部は上部より後に位置する)によって表面が非常に不等則に2つの部分に分かれる。大きい後区の部分は明瞭な同心円状の溝(より広く、平らなうね状)が見られる。

前区には細かい条線があり後区のうね状の条線とは連続する。これらの条線には非常に細かなギザギザがあり、はじめは傾き、すぐに上向きに急角度で曲がり、その後ほとんど水平になり前縁に延びる(下部漸新世、北海道雨竜郡産)。

手元の標本では、前区と後区を区切る縦の溝状の皺が、殻頂から腹縁に伸び、広い後区は幅の広い同心円状の成長脈が見られる。狭い前区は細かい鋸歯状の成長板肋が刻まれ、成長肋は大きくうねっている。

“*Martesia*” *pulchella* YOKOYAMAと比較すると殻長の大きさが10mmと小さく、同じ種とは考えられない。

従って、この化石の種名は“*Martesia*” sp. としておく。



写真6 巣穴の砂管(サンドパイプ)

参考文献

1. 波部忠重 (1977) 日本産軟体動物分類学 二枚貝綱／掘足綱 北隆館
2. 糸魚川淳二 (1963) 中新世穿孔貝類およびその生痕の化石—岐阜県瑞浪層群産—
地球科学第 67 号
3. Katsura OYAMA, AtsuyukiMIZUNO,
&ToruSAKAMOTO(1960)
ILLUSTRATED. HANDBOOK. OF JAPANESE PALEOGENE MOLLUSCS
GEOLOGICAL SURVEY OF JAPAN
4. 吉良哲明 (1975) 原色日本貝類図鑑 p.167 保育社
5. 長尾 巧 (1926) 九州古第三紀層の層序
地学雑誌 第 38 年 第 456 号 139-198